

「WTS China Report」は、中国における最近の環境・エネルギー関連の政策動向、トピックについて随時お伝えするものです。本稿では、工業情報化部により 26 年 7 月 31 日に発表された『工業分野のグリーン・低炭素発展 第 15 次五カ年計画（工业绿色低碳发展“十五五”规划）』についてご紹介します。

I. 工業情報化部：工業分野のグリーン・低炭素発展 第 15 次五カ年計画

工业和信息化部は、2026 年 7 月 31 日、『工業分野のグリーン・低炭素発展 第 15 次五カ年計画』を発表しました。以下では同政策の内容の一部についてご紹介します。

一、総体要求

2030 年までの目標：

- ・産業構造及びエネルギー利用構造を更に最適化する。
- ・工業分野における CO2 排出量をピークに到達させる。
- ・エネルギー・資源の利用効率を着実に向上させ、グリーンエネルギーの利用割合を顕著に高める。
- ・グリーン製造及びサービス体系をより一層充実させ、グリーン・低炭素産業の競争優位性を強固にし、向上させる。

コラム 1 「第 15 次五カ年計画」期における工業グリーン・低炭素発展の予期性指標 (※政府が達成を目指す目標指標であり、拘束力は持たない)			
NO.	指標	2025 年	2030 年
1	規模以上工業付加価値単位当たりエネルギー消費量削減率(%)	—	[>10]
2	規模以上工業付加価値単位当たり CO2 排出量削減率(%)	—	[>17]
2	工業付加価値単位当たり水消費量削減率(%)	—	[10]
4	主要再生資源の年間循環利用量（億トン）	3.8	5.1
5	大口工業固体廃棄物の総合利用率(%)	57	62
6	各级グリーン工場の生産額が規模以上製造業総生産額に占める割合(%)	30	45
7	ゼロカーボン工場の育成・建設数（箇所）	—	500

備考：注：〔 〕内は 5 年間の累計値を示す。

二、重点任务

（一）工業分野におけるカーボンピークアウト行動の深化

1. 産業構造とエネルギー利用構造の協調的転換の推進

- ・各地域がエネルギー資源の賦存状況及び産業の実情に立脚し、産業移転とグリーンエネルギーの協調的配置を強化するよう誘導する。
- ・法令及び関連規定に基づき、遅れた非効率な生産能力を淘汰する。
- ・国家の関連産業配置計画に適合することを前提に、グリーンエネルギーが豊富な地域が電解アルミニウム、鉄鋼、石油化学・化学、太陽光発電、動力電池等の産業を秩序ある形で受け入れる



ことを奨励する。

- ・グリーンエネルギー産業チェーンを延伸し、グリーン水素・アンモニア・メタノールの大規模導入を推進し、グリーンエネルギーの地元産業化による消化能力を高める。
- ・ゼロカーボン工場及びゼロカーボン算力施設を複数建設し、グリーン電力・グリーン水素等の利用割合を大幅に引き上げ、複製・普及可能な建設モデルを形成する。

2. 電化改造及びグリーンエネルギー利用の加速

- ・工業分野における最終エネルギー消費の電化改造を実施し、電気炉製鋼、電気ボイラー、電気窯炉、電気アシスト融解、電気加熱、高温ヒートポンプ、大出力電熱蓄電ボイラー等の先進技術・設備を普及させ、既存の非効率設備の電化代替を加速させる。
- ・工業用グリーンマイクログリッドの建設を推進し、太陽光発電、風力発電、ヒートポンプ、新型蓄電、水素エネルギー、廃熱・余剰圧力・余剰ガス、スマートエネルギー管理などを統合的に活用する。
- ・企業及び産業団地に対し、グリーン電力直結、新エネルギーの近隣接続による増量配電網、電源・系統・負荷・蓄電の一体化等の方式の導入を奨励し、工業分野におけるグリーン電力の利用規模を拡大する。
- ・工業分野における電力需要側管理を推進し、工業企業が既存の自社用発電所、柔軟な生産負荷、中断可能な負荷等の調整能力を活用し、電源と負荷の双方向の協調・連携を実現するよう奨励する。

3. 工業重点業界における省エネ・低炭素化の推進強化

- ・炭素排出総量・強度のダブル規制制度を全面的に実施し、工業分野における炭素管理体系を充実させる。
- ・鉄鋼、非鉄金属、石油化学・化学、建材、太陽光発電、算力施設等重点業界・重点分野に焦点を当て、工業省エネ監察・規制執行の強化を図り、エネルギー効率・炭素排出等の関連基準による拘束力を強化し、エネルギー効率・炭素効率の水準を向上させる。
- ・重点業界におけるエネルギー消費・炭素排出限度基準、重点エネルギー使用製品・設備のエネルギー効率基準等の整備を加速させ、指標要件を段階的に引き上げる。
- ・エネルギー効率・炭素効率トップランナー企業を選定・公表し、重点業界企業が基準への適合を目指すよう誘導する。
- ・省エネ・低炭素化診断サービスを継続的に実施し、省エネ・低炭素化サービスを企業に届ける取り組みを展開し、重点業界・重点分野における省エネ・低炭素化改造の実施を推進する。

(二) 産業のグリーン価値創造能力の向上

4. 従来型産業のグリーン転換の加速（鉄鋼、非鉄金属、石油化学・化学、建材、紡績、製紙）

5. グリーン分野で競争力を持つ産業の強固・向上（新エネルギー車、新エネルギー設備、新型蓄エネ等）

6. 新興産業のグリーン原動力の育成・拡大

- ・地域の実情に応じて水素エネルギー産業を発展させ、クリーン・低炭素水素の製造及び利用に関する重要技術の研究開発を実施し、水素エネルギーの総合利用実証事業を実施し、工業、交通等の分野におけるクリーン・低炭素水素の利用を拡大する。
- ・高性能で生分解可能なバイオベース材料の開発・応用を加速する。
- ・非食糧由来のバイオエタノール、バイオディーゼル、バイオ航空ケロシン等のバイオエネルギーを発展させる。



- ・製紙、日用化学品、紡績等の分野におけるバイオ製造の応用を拡大する。

(三) グリーン設備・製品の供給能力の向上

7. グリーン設備の大きな発展

- ・省エネ設備、節水設備、環境対策設備、資源総合利用設備の供給能力の向上を加速する。

8. グリーン製品の有効な供給の強化

- ・長寿命化、無害化、軽量化、低騒音化、省エネ、節水、節材、省スペース、リサイクル・再生容易性、再使用可能、ゼロカーボン等のグリーンデザインの重点方向に焦点を当て、業界別にグリーンデザイン要件を策定し、グリーンデザインソリューションを開発し、グリーン製品を普及させる。
- ・従来型エネルギー自動車の省エネ技術及び低炭素燃料技術の更新を秩序ある形で推進し、スマートコネクテッド新エネルギー車の全天候・全シーンでの応用発展を加速する。
- ・自動車における有害物質の使用制限に関する国家基準を策定し、有害物質の管理メカニズムを充実させ、自動車用冷媒のグリーン代替を実施する。
- ・電気・電子製品における有害物質の使用制限管理を強化し、管理対象品目を着実に拡大し、企業が強制国家基準を徹底するよう促す。
- ・エネルギー効率表示管理制度を深く実施し、企業がグリーン・スマート家電等の製品を生産することを奨励する。
- ・企業が健康、安全、グリーンで高品質な建材製品を生産することを奨励する。

9. グリーン・低炭素産業の国際協力の深化

(四) グリーン・低炭素技術の革新能力の向上

(五) スマート化・グリーン化の融合発展能力の向上

(六) 工業資源循環利用体系の整備

(七) グリーン製造・サービス体系の整備（グリーン工場、グリーン工業団地、グリーンサプライチェーン、グリーン製造サービス体系）

※本政策の原文については下記ウェブサイトをご参照ください。

https://www.gov.cn/zhengce/zhengceku/202607/content_7077146.htm

II. WTS コメント

1. 本計画は、「第15次五ヵ年計画」期における工業分野のグリーン転換に関する綱領的文書である。これに先立ち国務院が發布した『「第15次五ヵ年計画」期におけるカーボンピークアウト行動案』が全体像を明確に打ち出していたのに対し、本計画はその任務を、炭素排出量が全国総量の約7割を占める主要分野である工業にさらに落とし込み、2030年までに工業分野のCO₂排出量をピークに到達させる目標を明確にするとともに、付加価値単位当たりエネルギー消費量、炭素排出強度、ゼロカーボン工場数等の一連の定量指標を組み合わせて提示している。これは、工業のグリーン転換が方向性を示す要求から、評価可能な必須任務へと移行したことを意味する。



2. 従来と比較して、本計画の明らかな変化の一つは、その考え方の調整にある。すなわち、グリーン転換を単に投資を要するコンプライアンスコストとして捉えるのではなく、産業の高度化と価値創造の機会として同時に位置付けている点である。本計画が打ち出す「産業のグリーン化」と「グリーン産業化」の並立は、一方で従来型の高エネルギー消費業界に対し省エネ・低炭素化改造やエネルギー利用構造の最適化を求めつつ、他方で新エネルギー車、太陽光発電、新型蓄電、水素エネルギー等のグリーン産業を引き続き拡大・強化することを明確に支援するものである。また、本計画は初めて、スマート化とグリーン化の融合を独立した能力として位置付け、人工知能（AI）や産業用インターネット等の技術を生産プロセスにおけるエネルギー消費・炭素排出の最適化に活用することを推進しており、技術系企業に新たな参入の切り口を提供している。
3. 企業への影響は具体的かつ層別である。鉄鋼、非鉄金属、石油化学・化学、建材等の従来型業界は、より厳格なエネルギー効率及び炭素排出の制約に直面することとなり、プロジェクトの参入、生産能力の代替、炭素排出評価等の各段階における要件が一層高まり、単純な規模拡大に依存する余地は狭まる。一方、グリーン設備、省エネサービス、炭素管理ソフトウェア、資源循環利用等の分野にある企業にとっては、市場空間が明らかに拡大する。本計画はまた、グリーン工場の生産額が規模以上製造業総生産額に占める割合を45%とし、ゼロカーボン工場を500箇所育成・建設することも打ち出しており、これはグリーン製造体系が従来のモデル・試行段階から大規模な普及段階へ移行することを意味する。サプライチェーン上の中小企業も、リーディングカンパニーによるグリーン調達及び炭素フットプリント算定の要件を通じて、徐々に取り込まれることとなる。
4. ビジネスチャンスの観点からは、第一に、グリーン電力の利用に関連する需要が挙げられる。グリーン電力直結、工業用マイクログリッド、電源・系統・負荷・蓄電の一体化等の方式は、電力利用企業にとって長期的な電力コストの低減に向けた新たな道筋を提供する。第二に、デジタル化されたエネルギー・炭素管理である。企業は算定可能で追跡可能なエネルギー消費・炭素排出データ体系を構築する必要があり、関連するソフトウェア及びサービスの需要は急速に拡大する。第三に、資源循環利用である。特に使用済み動力電池、廃太陽光発電モジュール、廃風力発電ブレード等の新型固形廃棄物の総合利用について、本計画は明確な定量目標を示しており、産業化の余地が大きい。第四に、グリーン設備の輸出である。国際的なグリーン貿易ルールが厳格化するにつれ、ライフサイクル全体の炭素データを備えた設備・製品は、より競争力を有することとなる。
5. 総じて、本計画は企業に対し、比較的確な政策枠組みと長期的な市場見通しを提供するものである。早期に自社の炭素排出量の把握、エネルギー利用構造の評価、エネルギー効率のベンチマーク比較を実施することが、今後の要件に対応するための基礎作業となる。同時に、自社の事業特性に照らして、グリーン設備、省エネ改造、循環利用等の段階における参画機会を見出すことは、コンプライアンス上の圧力を実際の経営上の優位性へと転換する一助となる。

佛山早稻田科技有限公司

<事業内容>

脱炭素関連サービス

- 脱炭素現状評価及び計画、炭素排出削減技術カスタマイズ提案、脱炭素データ管理及び開示サポート
- 清潔エネルギー変更、エネルギー貯蓄の提案・実施サポート
- 脱炭素支援政策及び認証関連サポート、脱炭素能力構築及び研修

環境順法化対応サポート・特定課題解決

- 汚染排出現状評価及び診断、環境手続き実施サポート、環境政策コンサルティングサービス及び技術サポート
- 汚染対策技術カスタマイズ提案、環境施設工事全体計画及び施工監督・管理
- 汚染物検測・モニタリング及び汚染物異常値処理

環境順法化対応サポート・リスク回避 管理向上

- 環境順法化診断、環境人材育成
- 情報提供、環境定例会議実施、環境ニーズ対応

早稲田会員クラブ

- ビジネスマッチング、企業見学、専門セミナー、政策解説
- 日本技術の現地応用、日中協業プロジェクトのコーディネート

<問い合わせ先>

担当者：Ms. Judy（日本語可）

TEL：18688262655

Email：judy@wts-cn.com